
春らしく。

林檎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

春らしく。

【Nコード】

N8015B

【作者名】

林檎

【あらすじ】

私は誰を待つて居るのでしょうか。まだ見ぬ恋人でしょうか？まだ見ぬ親友でしょうか？優しい父母でしょうか？多分、どれも違うと思うのです。

(前書き)

詩に近いと思います。

死ぬな、なんて言わないで。

今日は新しい洋服を買いました。

柔らかくて真っ白で、ふわふわした服です。

だけど、意味が無いのです。

一人で居るのが一番素敵です。

布団に入って、悲しい夢を見ます。

柔らかい切なさ連れて、目が覚めます。

お腹が空いたらご飯を食べます。

幸せな事です。

だけど、泣きたいのに泣けない事は、不幸せな事です。

何か造ろうと思うのですが、上手く作れないのです。

道端で歌うミュージシャンのように、誰かを求めているのです。

私はここには居ません。

だとしたら、貴方ですらきつと、ここには居ないのかもしれない。触れても、それは定かではないのです。

気持ちとは裏腹に、私の全ては小さく、小さくなっていきます。

生きようと考えた、その次の瞬間にはもう、心に黒い何かが広がり始めるのです。

それは、透明で危うい真水に、黒い絵の具を一滴落とすのに似ています。

だから、それは貴方にも防ぎようのない事なのです。

愛した誰かを、愛した記憶すら薄れていきます。
だから私は悲しい人間になりつつあるのでしょう。
美しかった日々達は、過ぎてしまえば無かったのと同じなのです。

部屋に一人で居ると、テレビもつけないで居ると、錯覚してしま
います。

本当に私はこの世に一人ぼっちだと。

もしかすれば、この存在すら嘘なのだ、と。
夜は特にそうです。

とても怖くなります。

すがった薬も、もはや役立たずなのです。

私は全てに不安になります。

人より僅かばかりに不運だと、洗濯物を干す気にもなれないのです。

ふと、まだまだ若い自分のこれまでを見返ります。

決して満足だとは言えず、だから早く新しくなりたいのです。
新しくなることなど、叶わぬと知りながらも。

私の意とは裏腹に、空は今日も見事に晴れ渡ります。

春風が空の足下を撫でます。

やはり、そこには沢山の人間達が歩いて居るのです。

どうしたって私は寂しいままなのです。

私は私なのですから。

今、誰かに愛して欲しいのかもしれない。

そうすればもつと楽だったのかもしれない。

誰かを待つように、私は春のベンチに座っています。
意外にも春風はまだ氷の名残を含んでいて、薄着の私は小さくなりました。

カーディガンの袖を、ぐいと伸ばして。

ここに誰か来てくれるでしょうか。
微笑んでくれるでしょうか。

だけど日差しは暖かくて。

頬を照らす太陽の光の中で、私に少しの期待が芽生えるのでした。
抱えた膝の上に、桜の花びらが一片。

だから、もう少しだけ、もう少しだけ、と。

だから、それまでは。
死ぬな、なんて言わないで。

（後書き）

最後まで読んで頂いた方、本当に感謝です。ありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8015b/>

春らしく。

2010年10月9日18時09分発行